

## 演劇的活動を取り入れた日本語教育のワークショップにおける教師の気づき

ベーケン眞子 (コロラド州立大学)

この発表では日本語教師対象におこなった演劇的活動を取り入れた日本語教育のワークショップにおける教師の気づきについて述べる。多忙な日々を送る中、意欲はあっても新しい指導法などを取り入れるのはなかなか困難である。また教授法についての指導書なども実際に自身で体験してみないと具体的にどのように教室活動としておこなったらいいのか、どのような効果が期待できるのかなど実感できない。ワークショップを通し、自分の気づきから自分なりに演劇的活動を取り入れることができるようになることを促した。

このワークショップには、通常様々な活動を取り入れる努力をしている高校、コミュニティーカレッジ、大学の日本語教師が参加した。ワークショップは演劇的活動を取り入れることの意義、どのレベルでの取入れが可能か、どのように取り入れるかなどを中心に体験しながら行った。その体験を通しての教師の気づきには様々なものがあつた。特に、日本人の教師にとって文化面では当たり前となっていることが多いが、実際の活動を通してみると、実は学習者は、文化的背景の知識が欠けているため、あいまいな理解しかできていないことなどの気づきがあつた。また、いわゆる "context" "situation" などの大切さは理解していても、実際の教室活動でなぜそれが大切なのか明確になっていないことがよくある。演劇的活動を通しての気づきにより大切さを実感することもできた。

また、この気づきにより教科書の会話練習の導入の仕方の工夫、また会話に手を加えたり書き直したりという具体的な教室活動への活用も可能にすることができることを認識した。